

# 多摩ゆたか(たまゆたか)

登録番号：第5203号

登録年月日：平成8年10月15日

登録者：芦川孝三郎（東京都調布市  
富士見町2-19-23）

育成者：芦川孝三郎

来歴：「白峰」の自然交雑実生

育成地：東京都調布市富士見町

## 特性

### ■栽培特性

樹勢は「巨峰」より弱く、「白峰」と同程度で、枝の拡がりの中である。熟梢の太さと節間の長さは中程度、色は暗褐である。花穂は新梢当たりほぼ2穂着生し、長さは「白峰」より短めである。成葉葉身の形はくさび形、大きさは中である。発芽、開花期は「巨峰、白峰」と同時期である。花冠のはずれはよく、開花期の判断が容易である。

結果母枝基部からの新梢の発生が比較的良く、空枝も少ない。枝の登熟は容易であり、「白峰」よりよい。枝の眠り症状は、これまで東京では見られないので、「巨峰」程度と思われる。

### ■果実特性

自然状態の果房形は有岐円錐、400g前後で大きい。果房の揃いは比較的良い。整房時の果房形は円錐で、GA処理（満開時と満開10日後の25ppm）でやや円筒に近い形になる。花振るいはしやすいが、「巨峰」ほどではない。着粒密度は粗である。成熟期はやや早生で、8月下旬である。東京では、「巨峰」とほぼ同時期で、「白峰」より10～14日遅い。

果粒形は短楕円、粒重は12g前後で極大であるが、若木では9g前後である。果皮色は黄緑または黄白である。果粉は中程度。糖度は17～19%。酸は0.38～0.48%でGA処理果では有核果に比べやや多い。香気はなく、渋味は無～極少。肉質は中間、果皮の剥皮は中であり、「巨峰」と同程度で気にならない。種子数は1～2粒で少ない。無核果の混入は中程度である。

果皮の厚さは中で、裂果は10%未満と少ない。収穫後の果皮の褐変は少ない。「白峰」に比べサビが少なく、果皮の仕上がりが美しいことが大きな特徴である。脱粒性は「巨峰」よりやや少なく、黄緑色品種の中では比較的安定した収量が得られる。

日持ちは室温で5日前後と短い。果粒の軟化、脱粒、褐変が少ない。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

枝葉の病害は特に認められていない。また、花穂、果実でも問題となる病害、生理障害は発生していない。病虫害防除を含めた栽培管理は基本的に「巨峰」に準ずる。

若木や強樹勢の場合には、満開時と満開10日後の25ppmGA処理で、花振るいを抑え、有核果より収穫期を早め、大きな果房（果粒重8～9g）を得ることができる。ただし、酸抜けが悪くなるので、GA処理については留意する必要がある。また、樹勢が強いと、果房肩部の緑色の抜けが遅れることがあるが、食味に大きな影響はないため、他の黄緑色品種ほど気を遣う必要はない。

### ■地域適応性

「多摩ゆたか」は、比較的樹勢が落ち着きやすく、花振るいも生産上問題になる程度ではないので、巨峰系品種の中では果房の確保は容易と思われる。また、裂果やサビも少なく、大粒の黄緑色ブドウとして作りやすい品種といえる。育成地は火山灰土壌であり、有効土層の深い比較的肥沃な土壌条件でも経済生産が可能な品種である。

外観の良さを生かし、観光もぎとり園や、直売でのセット販売用として利用できる品種といえる。

（佐藤 洋二）